

# 令和5年度 まちかどミーティング町内会からの要望事項

大成町・光洋町地区

令和5年10月26日(木) 日吉総合福祉会館

要望 番号	要 望 事 項	取 組 状 況 等	反映 区分	担 当 部 課
1	<p><b>【生活道路除雪体制の向上について】</b> 糸井南町内会</p> <p>令和4年度の除雪体制は、75業者、機械約196台を使用し、市内を11ブロックに分けて作業が行われ、除雪機械の種類は除雪トラック(専用型、ダンプ架装型)・除雪ドーザ(ブラウ、バケット)・ロータリ除雪車などを使用していると市の公開情報から判断しています。</p> <p>当町内会の生活道路は数年前までは除雪ドーザブラウ式でのかき分け除雪がなされていましたが、近年は小型の除雪ドーザバケット式での運び移動可能な方法での除雪に変更がなされていると認識しています。この除雪機械による除雪作業の不具合点はひとつの除雪作業(1本の生活道路の除雪)に時間が費やされること、多雪の場合押し進んでいくことが極めて難しい為、道路脇に多数の除雪後の雪山を残していく(昨年冬季はその状況が多数見受けられた)事などが挙げられます。残雪により支障となる場合やその他のお気づきの事がありましたら、苫小牧市都市建設部維持課までご連絡くださいとはなっていますが、その前に、的確な除雪車輛の確保と除雪技術の向上に向けた取組を要望いたします。前年事項の継続も重要な点もありますが、更に一步前進したレベルアップが生活様式の向上に繋がり市民の願うところ です。</p>	<p>当該地区の除雪業者交代に伴い、一昨年度から除雪機械の機種が変更となり、除雪仕上がり具合や作業時間に遅れが生じておりました。今年度からは、地域・路線特性に応じた除雪機械の配置を行ってまいりたいと考えております。</p>	B	都市建設部 維持課



要望 番号	要 望 事 項	取 組 状 況 等	反映 区分	担 当 部 課
3	<p><b>【避難タワー兼、複合施設建設要望】</b> 日吉町内会</p> <p>発生に伴う、津波対策計画・強化指定39市町の内、14市町が予定される記事拝読致しました。苫小牧市の前田危機管理室長は、道の支援の前提となる緊急事業計画の策定に向けて、議論を加速させたいと強調、既存施設の活用住民の意見、財源も勘案検討すると話す。各市町の特性から、避難タワー建設、複合施設建設計画の発表ありましたが、苫小牧市の特性から鉄南地区に避難機能を備えた「避難タワー兼、複合施設」の建設要望致します。</p> <p>避難タワー建設だけに「数億単位」の投資は、もったいない。日常的に活用出来る複合施設は、地域住民の安全・安心は基より鉄南地区町内会所有会館の老朽化進む中、高齢化社会の財政負担軽減から複合施設の建設要望致します。</p>	<p>日本海溝・千島海溝沿いの津波対策については、現在、市の庁内検討会を立ち上げ、主にハード面での対応を検討しており、既存施設の津波一時避難施設への指定拡充に加え、公共施設の新改築時における避難機能の付加や、津波避難に特化した新たな施設整備などについて協議を進めております。</p> <p>本市としましても、ご指摘にあります「複合的な施設利用」の視点は重要と認識しており、この点を念頭に置いた効果的かつ効率的な対策を検討してまいります。</p>	B	市民生活部 危機管理室
4	<p><b>【鉄南地区海岸防潮堤建設要望】</b> 日吉町内会</p> <p>令和5年7月24日付、苫小牧民報の一面に松野官房長官の談話掲載され、拝読致しました。松野官房長官は石垣市訪問「台湾有事」念頭に、港湾・空港整備・シェルター整備計画の談話拝読し、政府もやっとなら防災対策に本腰を入れたなど好感を持ちました。この様な談話は過去にありませんでした。台湾有事対策は協調で無事となる、自然災害は通告なし対話なく重要課題です。千島・日本海溝地震で想定される、津波の高さは苫小牧沖で9.5M想定され、鉄南地区で、高い場所は国道36号線の海拔7Mです、2.5Mの津波直撃受けると、木造住宅は「壊滅的被害」を受けます鉄南地区海岸に防潮堤建設を国に要望すべきと考えます、そのことにより「住居地域」は浸水で済み生命財産は確保できます、鉄南地区海岸に防潮堤建設を切に、要望致します。</p>	<p>令和3年7月に北海道が公表した津波想定は、発生頻度は極めて低いものの、仮に発生すれば広く甚大な被害を発生させるレベルのものです。</p> <p>このレベルの津波に対して、国は、避難路や避難施設の整備、防災訓練や防災教育の充実など、避難重視の対策を進める考えを示しています。</p> <p>防潮堤などの海岸保全施設については、発生頻度を前提に耐震性強化を図るなどの考えが示されており、現状における建設は困難と認識しておりますが、津波対策について国や北海道と意見交換する場があることから、これらの機会を捉え、様々な地域の声を伝えてまいりたいと考えております。</p>	C	市民生活部 危機管理室

